

う蝕・歯周予防処置法

講 師	中島 真智子 牧 山 俊 美	実施時期 単 位 数	第 2 学年前・後期 2 単位 （ 8 0 時間）	実務経験	○
一般目標（GIO）	口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術および態度を習得する。				
授 業 概 要	歯科衛生士の主要業務の根幹となる歯科予防処置の基礎から応用の課程を習得する。特に手技においては対象が「生きている人」であることから、より確実なものを身につける。				
学 習 方 法	講義・実習				
成績評価の方法	前期は定期試験をおおよそ80％、残り20％は実技試験、課題、授業態度、出席状況等を総合し評価する。後期は定期試験をおおよそ60％、20％は実技試験、20％は奨励発表、課題、授業態度、出席状況を総合し評価する。				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監)最新「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 医歯薬出版				
履修上の注意	1年次の基礎を踏まえ、う蝕・歯周予防処置法の業務の実践を模擬的に行う。積極的な姿勢で授業に臨むとともに、手技習得のための自主練習を怠らない等の学習姿勢が臨まれる。				
参 考 書	①全国歯科衛生士教育協議会(監) 最新「歯周疾患」 医歯薬出版 ②新・歯科衛生士教育マニュアル「歯周治療」 クインテッセンス出版				

授業計画

No.	授業項目	到達目標（SB0s）	
1	総合患者実習の意義	主要三科の内容を具体的に説明できる。 総合患者実習の目的を説明できる。	患者の心理状態に配慮できる。
2 3	継続管理による業務記録	主要三科の内容を具体的に説明できる。 総合患者実習の目的を説明できる。 患者の心理状態に配慮できる。	総合患者実習に必要な資料をグループ毎に準備することができる。
4 5	総合患者 プレ実習練習	総合患者実習の内容を説明できる。 患者の心理状態に配慮できる。	苦手操作の把握ができる。
6 7 11	総合患者 プレ実習①	総合患者実習の術式を説明できる。 安全な機械操作ができる。	患者の心理状態に配慮できる。
12 13 14	総合患者 プレ実習反省	総合患者実習の目的を説明できる。 症例より情報を収集する。 症例より問題点を判断する。 症例より問題点に対する対応法を予測する。	項目ごとに各自の到達目標を持ち実習に臨む総合患者実習の目的を説明できる。 得た情報を記録する。 体調を整え自己管理する。 患者の心理状態に配慮できる。
15 16	歯周疾患への対応・エックス線読影	エックス線読影の基本を説明できる。 エックス線より情報を収集する。 エックス線より問題点を具体的に説明できる。	症例より問題点に対する。対応法を予測する。 得た情報を記録する。
17 18	根分岐部病変へのアプローチ	ファークーションプロービングの目的を説明できる。 ファークーションプロービングの必要器材を説明できる。	ファークーションプロービングの手順を説明できる。 ファークーションプロービング時の注意事項を説明できる。 ファークーションプロービングの安全な操作ができる。
19 20	スケーリング・プロービング 実技試験	1～2年次で習得した技術を活かしたスケーリング・プロービングができる。 歯石の沈着状態が判断できる。	歯石沈着状況に応じたスケーリングの器具選択ができる。 沈着している歯石を、短時間で確実に除去できる。
21 22	根面デブライドメント	根面デブライドメントの目的を説明できる。 根面デブライドメントの必要器材を説明できる。 根面デブライドメントの手順を説明できる。	根面デブライドメント処置時の注意事項を説明できる。 適応歯を選択する。 処置後の患者への諸注意事項を説明できる。
23 24 28	総合患者 プレ実習②	総合患者実習の術式を説明できる。 安全な機械操作ができる。	患者の心理状態に配慮できる。
29 30 34	総合患者実習	総合患者実習の一連の内容を実施する。 総合患者実習の一連の手技を把握する。	実習時の患者の心理を理解する。 今回実習体験を今後の臨床実習に活かす。
35 36 40	総合患者実習 症例発表	実習によって得た患者の情報を整理する。 実習時の手技を評価する。	第2回総合患者実習で、今回の反省を行動に活かす。 他の患者の症例を討議する。
実技試験		総合実習	